

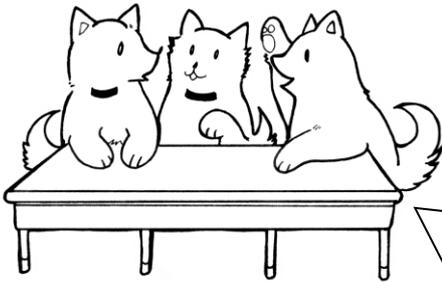
Q9 話し合いで一人一人の考えを引き出すためには、どのような工夫をするとよいのでしょうか。



授業者は本時のねらいをしっかり意識して話し合いの計画を立てる必要があります。みんなで問題を共有する中で、考えの違いや共通点を理解し、いろいろな考え方を関連付けながら話し合いを深めていきます。意見を出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるような工夫をいくつか紹介します。

自由に安心して言える雰囲気のある学級づくり

道徳科では、「自分が考えたことを素直に話すことが大切だ」という意識を子どもたちがもてるように、日頃から思ったことや考えたことを自由に話すことができる環境を心がけてつくるとよいです。



少人数による話し合い

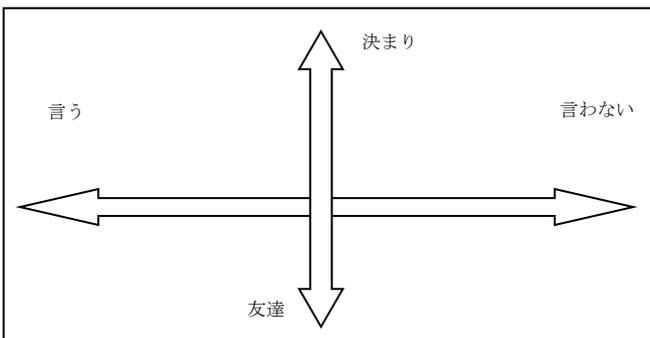
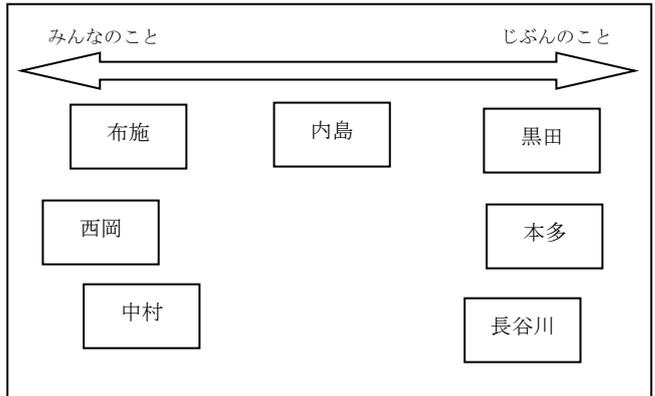
学級全体の前など、集団が大きくなると、緊張して自分の思ったことや考えたことを話せない児童がいます。少人数にすることで、話しやすい雰囲気を作ることができます。発達の段階や場面に応じて工夫するとよいです。

《ペアによる話し合い》隣に並んでいるペアによる話し合いは、学級全体の前で話すより、抵抗が少なく話合うことができます。

《グループによる話し合い》ペアをいくつか合わせたグループで話し合う方法では、発言の順番など簡単なルールを決めるのも、手立ての一つになります。小グループから集団討議につなげていくことができます。

意思表示

考えの近いところに自分の名前札を黒板に貼らせることによって、立場がより明確になります。Jamboard を活用しながら、意思表示をすることもできます。低学年でも、名前を動かすだけなら簡単に操作できます。高学年では、より細分化が可能です。





討議形式

主人公の考え方や行動について、「行く、行かない」「やる、やらない」という問題を扱う際に、クラスを半分に分けて特定の立場を与える方法があります。立場を入れ替えて両方の立場に立って話すことで、互いの立場の考え方を理解させる手立てとして使えます。道徳科の話合いは、相手を論破して説き伏せようとするものではありません。問題を共有する中で、いろいろな考え方を関連付けながら話合いを深めていきます。

座席の配置

《コの字、グループの形》

児童同士が互いの顔を見やすくなり、すぐに話合いに入ることができます。

《読み聞かせ》

机や椅子を使わず、教師の前に全員が集まって座ることで自由に話しやすくなります。

書く活動

書くことは、自分の考えをはっきりさせたり、思考を深めたりする利点があります。ワークシートや道徳ノートに書く活動を行うことで、発言を促すことができます。(Q10参照)

指名の工夫

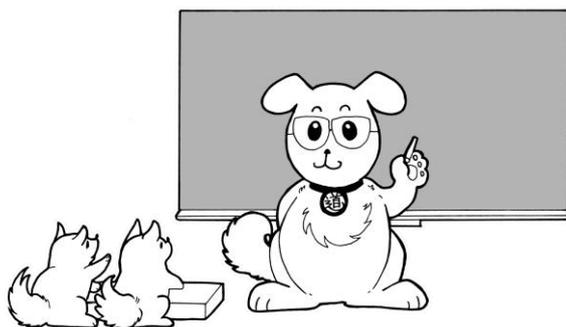
話合いに広がりをもたせるために、挙手した児童だけでなく、教師が意図的に指名したり、児童が相互に指名したりしながら、出番作りをしていくことが大切です。

《教師による意図的指名》

事前調査、日常の実態把握、授業中のワークシートの記述から、特徴的な考えを見とって、教師が意図的に指名をします。

《児童による相互指名》

「〇〇さんは、どう思いますか?」といったように、児童が互いに指名しあって話合いを進めていく方法もあります。発言を聞いているだけでなく、賛成や反対の意思表示をさせたり、付け足して自分の考えを述べさせたりすることで、話合っている内容への関心が高まります。



教師は授業のねらいを明確にもつことで、話合い全体の調整をしたり、それを進行したりすることが大切です。児童の実態や話合いの能力に合わせて、話合いの形式を変えていくことも必要です。

